

数字で見る
日本の
インター

2026年版

INTERNATIONAL SCHOOLS IN JAPAN BY THE NUMBERS

ハリス・ニコラス

Nickolas Hironao Harris

はじめに

こんにちは。ハリスです。

前作『うちの子、インターでいいのか?』を書いているとき、私はすっかり数字オタクになっていました。設立年、在校生数、学費、IBの平均点。気づけば、かなりのデータが手元にたまっていました。でも、その多くは本に載せられませんでした。全部入れていたら、あの本はとんでもない長さになっていたと思います。

そこで、その「入りきらなかった数字」だけを集めて、一冊にしました。それがこの本です。数えてみたら、出てくる学校は全部で66校ありました。インターが47校（開校予定の4校を含む）、英語で学べる一条校が19校です。

どこが一番いい学校か、決めるのは簡単ではありません。家庭によって、子どもによって、答えが変わるからです。でも、設立年や在校生数、IBの平均点、学費といった数字は、誰が見ても同じです。この本に並べたのは、そういう数字です。

ちなみに私は、2026年8月から台湾のインターで教えています。いつか、この本に出てくる学校のどれかで働きたいと思う日が来るかもしれません。なので、「一番いい学校」を名指しするつもりはありません。

ただ、数字だけでは見えないこともあります。卒業したあと、子どもたちがどうなるのか。私が一番気になってきたのはそこで、気づけばインターの卒業生（多くはASIJ出身）に話を聞く「Tokyo Alumni Podcast」を始め、対談は90本を超えました。そこで教わったことの一部は、各章の最後の「ニックの一言」に入っています。現役教師として、数字だけでは伝わらないことを書きました。どのページから読んでも大丈夫です。

手に取ってくれて、ありがとうございます！

ハリス・ニコラス

まず「そもそも」から知りたい方へ

前作『うちの子、インターでいいのか?』

インターの仕組み、英語の伸び方、日本の大学への戻り方、卒業後の進路。数字を見る前に知っておきたいことは、全部この一冊に入れました。

Amazon: <https://www.amazon.co.jp/dp/B0H6FFJBYS>

なぜこの本を作ったか

中学受験には偏差値表があります。高校受験にも、大学受験にもあります。四谷大塚でも日能研でも、親は数字を見ながら学校をしぼり込んでいきます。それが当たり前になっています。

ところがインターには、それが一つもありません。

学費は年間100万円台から1,100万円超。家の次に大きな買い物になる家庭も少なくありません。それなのに、比べるための数字がほとんど出回っていません。どの学校のパンフレットもきれいで、どこにも「一人ひとりを大切に」と書いてあります。あれでは選べません。

私は3歳から18歳まで、インターの生徒でした。アメリカン・スクール・イン・ジャパン（ASIJ）を2005年に卒業しています。父がASIJの教師だったので、学費はかなり抑えられました。それがなかったら、たぶん通えていません。

大学を出たあと、今度は教える側になりました。日本、サウジアラビア、韓国、バーレーン、ホンジュラス、台湾でIBとAPを教えてきました。生徒として15年、教師として15年以上。人生の大半を、インターの中で過ごしてきたことになります。

数字は各校の公表値ですが、どれを拾ってどう読むかは、中にいた人間として決めました。

前作『うちの子、インターでいいのか？』は、「そもそもインターとは何か」を一から書いた本です。

この本はその続編です。まだ「そもそも」の段階なら、先にあちらを読んだほうが早いと思います。

本書の読み方

第1章から第8章までは、設立年や学費、在校生数といった主観の入らない数字を扱います。第9章と第10章には、私の主観が入ります。とくに第10章の層分けは、複数の事実をもとにした私の判断で、公式なランキングではありません。第11章以降は、順位ではなくリストにしました。それから、数字は毎年変わります。この本の学費は原則2026-27年度、在校生数や国籍数は各校が2026年10月時点で公表している最新の値です。最終的には、必ず各校の公式サイトで確かめてください。数字を公表していない学校は、原則としてランキングに入れていません。この本は毎年改訂するつもりなので、学校が新しく数字を出せば、次の版に反映します。

前作

うちの子、インターでいいのか？

Amazon: <https://www.amazon.co.jp/dp/B0H6FFJBYS>

目次

CONTENTS

主観の入らないランキング

第1章	創立が古いインター	HERITAGE	5
第2章	創立が新しいインター	NEWEST	6
第3章	開校予定のインター	UPCOMING	7
第4章	在校生・卒業学年の人数が多い	ENROLLMENT	8
第5章	学費・一時金が高い・安いインター	TUITION	10
第6章	IB DPの平均点が高い	SCORES	13
第7章	国籍が多様なインター	DIVERSITY	14
第8章	広いキャンパスのインター	CAMPUS	15

少し主観が入るランキング

第9章	アクセス最強のインター	LOCATION	16
第10章	大学進学に強い	COLLEGE	17

ランキングではなくリスト

第11章	英国系のインター	BRITISH	20
第12章	寮のあるインター	BOARDING	21
第13章	英語で学べる一条校	DOMESTIC	22
あとがき	おわりに	AFTERWORD	24
さくいん	学校索引	INDEX	25

辞書のように、気になるページから読んでください。

用語

IB 国際バカロレア。PYPは小学校、MYPは中学校、DPは高校最後の2年間（45点満点）。

AP 米国の大学レベルの科目。試験は1～5点で、3点以上なら大学の単位になることが多い。

12年生 インターの最終学年（日本の高3）。インターの高校は9～12年生。

IGCSE・Aレベル 英国の試験（16歳前後と18歳前後に受ける）。

創立が古いインター

1872	設立	サンモール・インターナショナルスクール (St Maur) 神奈川県 / 横浜山手で150年以上。少人数のカトリック系
1902	設立	アメリカン・スクール・イン・ジャパン (ASIJ) 東京都 / 米国式の名門校
1904	設立	東京横浜独逸学園 (DSTY) 神奈川県 / ドイツ式。日本唯一の国際アビトゥア取得校
1908	設立	聖心インター・広尾 (ISSH) 東京都 / カトリック系女子校。AP併設
1909	設立	神戸ドイツ学院 (DSKI) 兵庫県 / 神戸・六甲アイランド。ドイツ系、2～14歳、IB PYP
1913	設立	カナディアン・アカデミー (CA) 兵庫県 / 神戸・六甲アイランド。IB一貫
1924	設立	横浜インターナショナルスクール (YIS) 神奈川県 / 1980年代からのIB校。PYP～DP一貫
1946	設立	セント・マイケルズ・インターナショナルスクール 兵庫県 / 神戸・中山手。英国式の小学校、戦後すぐの創立
1949	設立	西町インターナショナルスクール 東京都 / 元麻布。松方種子が創立。毎日日本語を学ぶK～G9

ニックの一言

サンモールは150年以上。世界的に見ても最古級。規模は小さいのに、日本でインターに通った人なら誰もがその名を知っている。個人的な話をひとつ。2002年、私はASIJの二軍（JV）でサッカーをやっていた。その年、一軍（Varsity）のユニフォームには「100周年」のロゴが入っていた。中学生だった私は、それを見て「うわ、カッコいい」と本気で思ったのを今でも覚えている。会社でも100年続けば老舗と呼ばれる。そんな学校が、日本には何校もある。横浜や神戸の外国人居留地から始まり、震災や戦争をくぐり抜けて、今も同じ場所で子どもを育てている学校がある。新しいブランド校の話ばかりの今、この歴史はもっと知られていいと思う。

創立が新しいインター

2025

設立

NLCS神戸（NLCS Kobe）

兵庫県／英国の名門NLCSの日本校。IB候補校（PYP・MYP）

2023

設立

ラグビー・スクール・ジャパン（RSJ）

千葉県／ラグビー発祥校の日本校。英国式

2023

設立

マルバーン・カレッジ東京（MCT）

東京都／英国Malvernの日本校。IB＋英国式

2022

設立

ハロウ安比校（Harrow Appi）

岩手県／1572年創立Harrowの日本校。全寮制

2022

設立

白馬インターナショナルスクール（Hakuba）

長野県／白馬村。自然環境を生かした寄宿型

2018

設立

アスコット・インターナショナルスクール（Ascot）

兵庫県／神戸市北区。英国式（ケンブリッジ課程）

2014

設立

UWC ISAKジャパン（ISAK）

長野県／UWC加盟の全寮制。高校のみ

2011

設立

同志社インターナショナルスクール京都（DISK）

京都府／同志社系。IB DP。2029年に閉校予定

ニックの一言

NLCSは、私が住んでいた済州島にも学校がある。そのIB平均は37点（2025年）で、上位の生徒は毎年何人もオックスブリッジに進む。ISAKも一種のブランドで、世界に18校あるUWC（ユナイテッド・ワールド・カレッジ）の日本校だ。1962年にウェールズで始まり、今はカナダ、イタリア、香港、シンガポール、インド、アメリカ、タンザニアなどにある。ISAKは前から気になっている学校だ。ブランドは世界的だが、ほかのインターとは入り方がまるで違う。生徒の大半が奨学金を受け、学力に加えて好奇心やUWCの理念との相性を見て、学年の顔ぶれが偏らないように生徒を選ぶ。合う子にとっては、これ以上ない環境だと思う。ハロウが面白いのは、日本では新参なのに本国では創立から約450年経っているところ。新しい日本校の実績はこれから。ブランドと中身は、分けて見たほうがいい。

開校予定のインター

2027

開校予定

秋谷葉山国際学園 (AHIS)

神奈川県 / 横須賀・湘南国際村。2027年8月末に年少～小3で開校し、順次G10まで（定員約470名）

2027

開校予定

エブソムカレッジ東京 (Epsom)

東京都 / 英国Epsom College+神田外語グループ。2027年秋に3～11歳（Year 6まで）で開校。千代田区内神田・神田駅至近

2027

開校予定

ゴードンストウン日本校 (Gordonstoun)

和歌山県 / 英国王室が学んだ超名門。和歌山市の全寮制。11～15歳で開校し、順次18歳まで（定員約700名の予定）

2027

開校予定

アオバジャパン金沢 (Aoba Kanazawa)

石川県 / 金沢市。アオバジャパンの新キャンパス。3歳～G10、G11～12はオンラインDP

2028

開校予定

NLCS神戸 シニア校 (NLCS)

兵庫県 / 2025年開校のNLCS神戸が2028年8月、6年生以上を六甲の新キャンパスへ

2028

開校予定

ブライトン・カレッジ関西外大 (Brighton)

大阪府 / 枚方市・関西外国語大学と提携。英国の名門ブライトン・カレッジ（1845年創立）。2028年9月に小学部、2029年か2030年に中高（Aレベル）

ニックの一言

一番わくわくしているのは、秋谷葉山国際学園だ。校長のアンナ・ノヴィックさんがすごい。まだ若く、ハーバード出身で、自身もサンモールの卒業生だ。母校でIB生物を教えていた時期もある。学校のトップには、教室の中をほとんど知らない人も結構いる。彼女はインターを、生徒の側からも教師の側からも知っている。そういう人が一から作る学校だから、期待している。もう一つの注目はゴードンストウン。フィリップ殿下やチャールズ国王が学んだ超名門だ。もう一つ気になるのは、これから来る学校にイギリス系がやたらと多いことだ。理由はわからないが、私は制度の近さだと見ている。IGCSEやAレベルは、決まった試験に向けて積み上げていく仕組みで、アメリカ式より日本の受験の感覚に近い。日本の親には、そこがわかりやすいのかもしれない。

在校生が多いインター

1	アメリカン・スクール・イン・ジャパン (ASIJ) 東京・調布の広大なキャンパス	約1,730名
2	東京国際フランス学園 (LFI)	約1,600名
3	ブリティッシュ・スクール (BST)	約1,400名
4	セント・メリーズ (SMIS)	約980名
5	横浜インター (YIS)	約830名
6	アオバジャパン (AJIS)	約810名
7	清泉 (Seisen)	約700名
8	カナディアン・アカデミー (CA)	約690名
9	ケイ・インター東京 (KIST)	約670名
10	聖心インター・広尾 (ISSH)	約580名
10	オキナワ・クリスチャン (OCSI)・2024-25	約580名

※ 各校公式サイト・スクールプロフィール（2026年10月時点の公表値、幼稚園・プリスクール～高校の合計）をもとにした概数。年度により変動する。インド・インター（IISJ）とGIIS東京は合計人数を公表していないため外した。ローラスの「1,400名以上」は幼稚園を含む数。

ニックの一言

在校生は多ければいいというものではない。強みはわかりやすく、ミュージカルや部活は人が多いほど層が厚くなる。ASIJの演劇が強いのも、約600人の高校生から才能を選べるからだろう。ただ、裏を返せば競争も激しい。私はサッカーのコーチもしてきた。以前サウジで教えた学校は1学年170人、ASIJより多い。JVの選抜だけで80人が来て、残れたのは25人ほど。他のインターならスタメン、少なくともJVには入れるレベルの子が、何人も落ちていった。学校が大きいほど、一人ひとりの出番はむしろ減る。ミュージカルの主役も同じだ。校庭も同じで、人数が多いほど一人あたりの場所は狭くなる。

卒業学年の人数が多い

1	アメリカン・スクール・イン・ジャパン (ASIJ)	145名
	2027年卒 (2026-27年度スクールプロフィール)。高校生は586名	
2	東京国際フランス学園 (LFI)・2026年	91名
3	UWC ISAK・2026年卒	80名
4	ブリティッシュ・スクール (BST)・2026年卒	76名
5	セント・メリーズ (SMIS)・2027年卒	74名
6	横浜インター (YIS)・2027年卒	72名
7	カナディアン・アカデミー (CA)	約64名
8	アオバジャパン (AJIS)・2025年卒	53名
8	クリスチャン・アカデミー (CAJ)	約53名
10	清泉 (Seisen)・2026年卒	48名
11	聖心インター・広尾 (ISSH)・2027年卒	43名
12	ケイ・インター東京 (KIST)・2026年卒	38名
13	ハロウ安比校 (Harrow Appi)・2026年卒	34名
13	サンモール (St Maur)・2026年	34名
13	マリスト・ブラザーズ (MBIS)・2027年卒	34名
16	名古屋インター (NIS)・2026年卒	32名
17	大阪インター (OIS)・2027年卒	28名

※ 高校最終学年の人数。各校のスクールプロフィールや公式発表による（年は卒業年）。CAとCAJは高校生数（254名・213名）からの概数。サンモールは2026年にIBを受験した12年生、東京国際フランス学園は2026年のバカロレア受験者の数。

ニックの一言

在校生の多さと、卒業学年の厚みは別物だ。わかりやすいのがISAK。全校で約200名なので在校生のランキングには出てこないが、高校だけの学校だから、卒業学年は80名もいる。逆に在校生が多くても、幼稚園や小学校が大きいだけで、高校の学年は小さい学校もある。大学進学を考えるなら、見るべきはこちらの数字だ。卒業学年が大きいと、同じレベルの仲間が多く、授業の選択肢も増え、進学カウンセラーに入ってくる大学の情報も増える。その代わり、少人数の学校は先生が目が一人ひとりに届く。

学費が高いインター

1	ハロウ安比校 (Harrow Appi)	約1,146万円	\$72,500
	全寮制・寮費食費込み (2026-27年度)。学年により約1,055~1,146万		
2	ラグビー・スクール (RSJ) 寮費・食費込み	約953万円	\$60,300
3	UWC ISAK 全寮	約673万円	\$42,600
4	白馬インター (Hakuba) 寮費込み	約660万円	\$41,800
5	アメリカン・スクール (ASIJ)	約383万円	\$24,200
6	サンモール (St Maur)	約356万円	\$22,500
7	横浜インター (YIS)	約344万円	\$21,800
8	東京インター (TIS)	約340万円	\$21,500
9	カナディアン・アカデミー (CA)	約337万円	\$21,300
10	名古屋インター (NIS)	約318万円	\$20,100
11	ブリティッシュ・スクール (BST)	約307万円	\$19,400

※ 2026-27年度の各校公式値を万円単位に丸めた概数。上位4校は授業料+寮費・食費、5位以下は高校最高学年の授業料のみ。施設費・入学金はどの学校も含まない（ラグビーとUWC ISAKは別に年50万円、白馬は53万円の施設費）。CAの寮は任意で年350万円。西町は9年生までの学校なので外した（G9で約313万円）。ドルは1ドル=158円（2026年10月）で換算。

ニックの一言

一番の注意点から。上位4校は寮費・食費込みだが、5位以下は「授業料」だけで、実際の請求はもっと高い。例えばASIJ。高校の授業料は約383万だが、施設費などを足すと通年で約408万になる。しかも初年度は入学金や建設協力金のがのり、最初の1年だけで約595万。ハロウ安比も同じだ。授業料・寮費の1,055万に、入学金100万・デポジット44万・出願料5万・制服26万・遠征費20~60万が別途のる。デポジットは条件付きで返ってくるが、それを除いても初年度は約1,210~1,250万になる。施設費などの必須費用を足すと、表の数字の1~2割増しになる学校が多い。前作でも書いたが、本当の出費は学費だけではない。2013年、弟のマックスはサッカーの大会でラスベガスまで飛んだ。遠征費だけで25万円。ユニフォーム代2万円、その他2~3万円。両親はあの1シーズンだけで30万円払っている。2か月半のシーズン、たった一つの部活でだ。私が通った90~2000年代、ASIJは年200万ほど。今は別世界だ。

学費が安いインター

1	オキナワ・クリスチャン (OCSI)	約116万円	\$7,300
	高校の授業料 (2026-27年度)。施設費・教材費・IT費が別に年約19万円		
2	インド・インター (IISJ)・東京	約120万円	\$7,600
3	東北インター (仙台)	約140万円	\$8,900
4	つくばインター	約156万円	\$9,900
5	北海道インター (HIS)・札幌	約165万円	\$10,400
6	同志社インター京都 (DISK)・2025年9月更新	約170万円	\$10,800
7	広島インター (個人負担の料金)	約175万円	\$11,100
8	東京横浜独逸学園 (DSTY)	約184万円	\$11,600
9	コロンビア・インター (所沢)	約194万円	\$12,300
10	マリスト・ブラザーズ (MBIS)・神戸	約212万円	\$13,400

※ 各校公式サイト の最高学年の授業料 (2026-27年度、表記のある学校はその年)。施設費・入学金は含まない。東京国際フランス学園は国籍で学費が異なるため外した。同志社インター (DISK) は2029年に閉校予定。次点は福岡インターとクリスチャン・アカデミーの約229万。大阪YMCAは「授業料」と「開発費」に分けて表示しており、合計は約231万。ドルは1ドル=158円 (2026年10月) で換算。

ニックの一言

インターは年300万が当たり前、と思っている人は多い。でもこのページの9校は年200万円未満で、地方や、インド系・ドイツ系のように本国の制度に乗っている学校に意外とある。学費は車のように一度払えば終わりの買い物ではない。毎年払う。年190万の学校と290万の学校の差は100万円に見えるが、10年通えば1,000万円だ。子どもが二人なら2,000万円。安い学校を最初から外すのはもったいない。ただ、安いのにには理由がある。地方で物価が安い、本国や宗教団体が支えている、規模が小さい、などだ。WASCやCISの認定、先生の数、卒業生の進学先は自分の目で確かめてほしい。実は、英語で学べる学校で一番安いのはインターじゃない。第13章の一条校だ。都立国際のIBコースは授業料が年11万8,800円で、しかも今は都の無償化で原則かからない。かかるのは年5.7万~23.5万円の学年積立金くらいで、日本の高卒資格も付く。学費だけで言えば、これが最強の選択肢だ。

入学時の一時金が高い・安い

入学するときに1回だけ払い、あとから戻ってこないお金。申込料、入学金、施設費などの合計で、毎年払う費用は含めない。小学1年生以上で入る第1子の場合（原則2026-27年度）。

高い順

1	アメリカン・スクール・イン・ジャパン (ASIJ)	187.5 万円	\$11,900
2	横浜インター (YIS)	153 万円	\$9,700
3	セント・メリーズ (SMIS)	145 万円	\$9,200
4	東京インター (TIS)	143 万円	\$9,100
5	ホライゾン・ジャパン (HJIS)	129.5 万円	\$8,200
6	ブリティッシュ・スクール (BST)	122 万円	\$7,700
7	西町インター (Nishimachi)	115.5 万円	\$7,300

安い順（7位が同額のため8校）

1	インド・インター (IISJ)	2 万円	\$130
2	GIIS東京	4 万円	\$250
3	同志社インター京都 (DISK)	27 万円	\$1,700
4	つくばインター	32 万円	\$2,000
4	UWC ISAK・2025-26	32 万円	\$2,000
6	白馬インター (Hakuba)	32.5 万円	\$2,100
7	北海道インター (HIS)	33 万円	\$2,100
7	大阪YMCAインター (OYIS)	33 万円	\$2,100

※ 各校公式の料金表による（同志社インターは年度表記なし、2029年閉校予定）。セント・メリーズは3～8年生の新入生にiPadかMacBookの代金が別に加わる。西町の施設費82.5万円は返金の有無が明記されていない。GIISはIB課程だと5万円、白馬は海外からの入学だと52.5万円、大阪YMCAは10～12年生だと22.2万円。ラグビー（104万円）とマルバーン（106.4万円）は7位のすぐ下。東京国際フランス学園、京都インターは公式の金額を確認できず外した。ドルは1ドル＝158円で換算。

ニックの一言

入学時の一時金は、学費のランキングでは見えないお金だ。1位のASIJは187.5万円。インド・インターの1年分の学費より高い。しかもこれは子ども1人分で、兄弟割引があっても学費だけが対象という学校が多い。気をつけたいのは転校だ。西町は9年生までなので、高校で別のインターに移れば、もう一度一時金を払うことになる。逆に安いほうを見ると、学費が安いランキング（p.11）と顔ぶれがかなり重なる。もう一つ、新しい校舎に移ると、一時金上がることもある。2026年8月に高輪ゲートウェイへ移ったTISは、123万円から143万円に上がった。

IB DPの平均点が高い

1	ケイ・インターナショナルスクール東京 (KIST) 2026年卒業生 / 45点満点中。学年38名中31名がDP受験 世界平均は30.88点 (IBO 2026年5月)	42.7 点
2	横浜 (YIS) ・2026	36.0 点
3	サンモール (St Maur) ・2026 34名中28名がDP受験	35.3 点
4	セント・メリーズ (SMIS) ・2026	35.0 点
4	東北インター (仙台) ・2026	35.0 点
6	UWC ISAK ・2024	34.5 点
7	大阪インター (OIS) ・2026 27名中23名がDP受験	34.0 点
8	GIIS東京 ・2026	33.5 点
9	清泉 (Seisen) ・2026 48名中35名がDP受験	33.0 点
9	アオバ (AJIS) ・2023	33.0 点
9	名古屋インター (NIS) ・2026 32名中25名がDP受験	33.0 点
12	カナディアン・アカデミー (CA) ・2026	32.6 点
13	ホライゾン・ジャパン (HJIS) ・2025	32.5 点
14	大阪YMCAインター (OYIS) ・2025	31.4 点

※ 各校公表のIB DP平均点。年度は学校ごとに最新の公表年（GIIS東京はグループの発表、UWC ISAKは2024-25年度プロフィール）。世界平均はIBO統計による。ASIJ・聖心・CAJなどAP中心の学校は指標が違うため比べられない（最新のAP平均はASIJ 4.0、聖心4.1）。小さな灰色の文字は、学年のうちフルDPを受けた人数（両方を公表している学校のみ）。マリスト（2026年32点）は合格者だけの平均のため外した。参考までに、一条校の開智日本橋は34.4点（2025年11月）。

ニッケの一言

KISTの42.7点は世界トップクラス。世界平均が31点弱だから、とんでもない数字だ。実はKISTはMYPをやらない。PYPの次は独自課程とIGCSEを挟んで、最後にDP。かなり珍しい形だ。それで最高スコアなのが面白い。日本のインターは世界平均を超える学校が多い。私が高く評価しているのは横浜（YIS）だ。この中でもDPを受ける人数が多く、2026年は62人が受験して平均36点。受験者が多いほど平均は下がりやすい。少人数の精鋭が出す高得点とは、重みが違う。

国籍が多様なインター

1	UWC ISAK（軽井沢）	約84 か国
	84か国の生徒が全寮制で在籍（2025-26年度） 世界の縮図のような環境	
2	東京インター（TIS）	約70 か国
2	ブリティッシュ・スクール（BST）	約70 か国
4	東京国際フランス学園（LFI）	60 か国超
5	アメリカン・スクール（ASIJ）	約60 か国
6	横浜インター（YIS）	約50 か国
7	ホライゾン・ジャパン（HJIS）	45 か国超
8	聖心インター・広尾（ISSH）	約43 か国
8	セント・メリーズ（SMIS）	約43 か国
10	カナディアン・アカデミー（CA）	約42 か国
11	アオバジャパン（AJIS）	約41 か国
12	清泉（Seisen）	40 か国超
12	福岡インター	40 か国超
14	名古屋インター（NIS）	約38 か国
15	ケイ・インター東京（KIST）	約36 か国

※ 各校公式サイト・スクールプロフィールの公表値（2026年10月時点）。生徒の出入りで毎年変わるので概数。プロフィールと公式サイトで数字が違う場合はプロフィールを採用した（KIST 36／サイトは50超、セント・メリーズ 43／約60、アオバ 41／46）。圏外すぐ下に、サンモール、西町、マリスタがいずれも約35か国、大阪インターは35か国超。

ニックの一言

リヤドのAISRで歴史を教えていたとき、第二次世界大戦の一次資料を読む単元があった。手元にあるのはほとんど英語訳だったが、そのクラスにはフランス語とドイツ語を母語とする生徒がいて、原文を読んで訳と見比べてくれた。ほかの生徒も二つの版のずれをその場で見られた。計画して作れる場面ではなく、国籍の幅が広い学校だからこそ起きる。ただ、生徒としてASIJに、教師としてAISRにいて一番つらかったのは、毎年、学年の15～20%が年度末に去っていくことだった。同じ国の子が多い学校ではそれがずっと少なく、何年も続く友人関係となじみやすさがある。このページの数字が示すのは学校のタイプであって、優劣ではない。

広いキャンパスのインター

バーはハロウ安比=100%

1	ハロウ安比校 (Harrow Appi) 東京ドーム 約1.9個分。岩手・安比高原。全寮制の広大な自然		約9.0万 m ²
2	アメリカン・スクール (ASIJ) 東京ドーム約1.2個分		約5.8万 m ²
3	セント・メリーズ (SMIS) 東京ドーム約0.8個分		約3.6万 m ²
3	カナディアン・アカデミー (CA) 東京ドーム約0.8個分		約3.6万 m ²
5	名古屋インター (NIS) 東京ドーム約0.6個分		約3.0万 m ²
6	UWC ISAK 東京ドーム約0.5個分		約2.4万 m ²

※ 面積は各種資料による目安。ハロウ安比は開校時発表の敷地面積（9万m²）。ASIJは14.33エーカー、セント・メリーズとCAは9エーカー、名古屋インターは7.5エーカーからの換算。UWC ISAKは2014年開校時の約2.4万m²で、2019年から隣接する森30haを別に借りている。東京ドーム＝約4.7万m²（建築面積ベース）で換算。ラグビーは敷地面積が確認できず、白馬は「9エーカーの学校林」で校地と比べにくいいため外した。一条校では立命館宇治が約13.5万m²。

ニックの一言

キャンパスは、基本的に広いほど良い。スポーツも演劇も理科の実験も、場所があるだけできることが増える。弱点はお金で、広い土地を持てばそれだけ費用がかかる。上位2校がどちらも東京23区の外にあるのも、都心ではこれだけの土地がまず手に入らないからだ。あとは、子どもがスポーツ好きかどうかで重みが変わる。私は中学から高校まで、ずっと運動漬けだった。だからASIJのあのグラウンドは、私にとって本当に大きかった。逆の例も見てきた。バンコクのNISTは、タイでもトップクラスで学費も高い。でも場所は街の中心で、東京で言えば渋谷のど真ん中に学校があるようなものだ。結果、グラウンドは一面だけで、それをK～G12で分け合っている。スポーツをやる子には、かなりきつい。

アクセス最強のインター

これは東京23区内の学校にしぼったランキング。「路線の便利さ＋駅からの近さ＋街の暮らしやすさ＋都心との近さ」を同じくらいの重さで見比べて。

1	西町インター (Nishimachi) 麻布十番駅約8分・南北/大江戸線	最寄り駅から徒歩 8分
2	聖心インター・広尾 (ISSH) 広尾駅3分・日比谷線	最寄り駅から徒歩 3分
3	ローラス・インター (Laurus) 三田駅2分・田町駅5分 (JR山手/京浜東北+浅草/三田線)・芝キャンパス	最寄り駅から徒歩 2分
4	ブリティッシュ・スクール (BST) 麻布台ヒルズ (神谷町駅・六本木一丁目駅直結) に幼～小6。中高は三軒茶屋	最寄り駅から徒歩 2分
5	東京インター (TIS) 泉岳寺駅6分・高輪ゲートウェイ駅9分 (2026年8月移転)	最寄り駅から徒歩 6分
6	ケイ・インター東京 (KIST) 清澄白河駅「30秒」(学校公式)・半蔵門/大江戸線	最寄り駅から徒歩 1分
7	ニューインター (NewIS) 雑司が谷駅3分・池袋駅9～10分 (JR+5路線)	最寄り駅から徒歩 3分
8	シナガワ・インター (SIS) 青物横丁駅3分 (小4～)・品川シーサイド駅5分 (小1～3)	最寄り駅から徒歩 3分
9	カナディアン・インター東京 (CIS Tokyo) 中目黒駅7分 (小学部)・幼稚部と中高は大崎駅 (北品川)	最寄り駅から徒歩 7分
10	東京国際フランス学園 (LFI) 新板橋駅6～7分・三田線、板橋駅9～10分・JR埼京線。北区滝野川	最寄り駅から徒歩 6分

※ 東京インターは2026年8月、旧三田キャンパス (南麻布) から高輪ゲートウェイシティへ移転。

※ 分数は各校公式サイト徒歩分数 (KISTの「30秒」は1分に切り上げ)。BSTは学校が分数を公表していないため地図上の目安。路線名は学校が示していない場合は筆者が補った。西町は公式の「5～10分」の中間をとった。順位は路線数・街・都心との近さも含めた総合評価のため、分数の順とは一致しない。

ニックの一言

ここは完全に私の主観だ。どこに住むかで、この順位は大きく変わる。ただ、駅から近ければいいという話でもない。路線の数や、駅前にコンビニやカフェ、病院があるか、都心にどれだけ近いかなど含めての「立地」だ。その意味で麻布十番や広尾は強い。生活に必要なものが徒歩圏に揃っている。とくに麻布十番は、いかにも「おしゃれな街」だ。商店街には老舗の和菓子屋からカフェまで並び、大使館も多いから外国人家族にも暮らしやすい。学校帰りに歩くだけで楽しい。KISTは駅1分だが、清澄白河は都心の東の端。それで少し下がる。逆に、私の母校ASIJは正直まわりに何もない (笑)。広さと引き換えに、立地は捨てている。毎日の通学が6年、12年と続けば、この差はじわじわ効いてくる。

大学進学に強い

ここには主観が入る。とはいえ、思いつきで並べたわけでもない。卒業生の進学先、IB・AP・Aレベルの結果、学年の人数。この三つで層を分け、同じ層の中では上に置いた学校ほど強いと見ている。

「進学先」は各校が公表した実際の進学先（matriculation）。「合格」は合格実績で、一人で何校も受かるぶん実際より強く見える。進学先は一人一校。点数に付けた年は受験した年。

人数まで出しているのは現在ASIJ、CA、CAJ、NISだけ（YISとBSTは以前の資料で公表）で、ほかは校名のみ。出願上限のある学校（ISSH 10校、CA 12校、YIS 15校、清泉は10校までを推奨）のリストはそのぶん控えめになる。大学の略称は25ページにまとめた。

100校を超えるインターのうち、進学実績を公表しているのは一部だけ。比べたのはその学校だ。フランス系・ドイツ系と、卒業生のいない新設校は外した。一条校は第13章を参照。



S ティア

1学年140名超の層の厚さで、世界の最難関へ毎年のように送り出す



アメリカン・スクール・イン・ジャパン (ASIJ)

1学年145名（2027年卒、高校586名）。AP受験378名・999科目（2026）、最新の平均4.0、3以上94%。進学先（2024～26、人数付き）：UBC16、トロント15、UCLA14、UCバークレー8、USC8、ハーバード6、早稲田6、シカゴ5、コーネル5、ブラウン5、デューク5、上智5、イエール3、東大3、プリンストン2、コロンビア2、スタンフォード2、ICU2、UCL2、ダートマス、ペンシルベニア（アイビー8校すべてに進学者）、MIT、オックスフォード、LSE、インペリアル



A ティア

学年の上位層が世界トップ校に届き、中位層も難関大に進む



ケイ・インター東京 (KIST)

1学年33～39名、DP受験率82～97%。IB平均は2022年42.1→23年41.1→24年41.5→25年42.0→26年42.7、合格率5年連続100%。2026年は受験者の23%にあたる7名が満点45、94%が40点以上。進学先（2024～26）：スタンフォード、ブラウン、シカゴ、カーネギーメロン、ケンブリッジ、オックスフォード、インペリアル、LSE、UCL、トロント、東大、慶應、早稲田。合格ではプリンストン、コーネル、ダートマスも（2020年以降）



UWC ISAK

卒業生は近年、年70～90名（2026年は80名）。約75%が奨学金を受ける。IB平均は2024年34.5（受験89名、合格率96.5%）、2022～23年は33～36点。進学先（2022～24）：プリンストン、コロンビア、コーネル、ブラウン、シカゴ、UCバークレー、UCLA、スワースモア、ポモナ、トロント、マギル、UCL、KCL、NUS、北京大、慶應、早稲田、ICU。ほかにイエール、ペンシルベニア、オックスフォード、東大への進学も。Davis UWC奨学金で米国名門の学費支援あり



セント・メリーズ (SMIS)

1学年74名（2027年卒）、約93%がフルDP。IB平均は2022年37→24年35→25年34→26年35。SAT中央50%は1270～1460（2027年卒）。進学先（2022～26）：ダートマス、ペンシルベニア、ブラウン、シカゴ、ノースウェスタン、ライス、カーネギーメロン、UCバークレー、UCLA、ケンブリッジ、インペリアル、UCL、KCL、エディンバラ、トロント、マギル、UBC、東大、慶應、早稲田、上智、ICU



ブリティッシュ・スクール (BST)

1学年76名（2026年卒、全校1,400名超）。Aレベル A*～Aは2025年59%、26年51%。IGCSE 9～7は68%→72%。進学先（2026年卒）：ケンブリッジ、インペリアル、LSE、UCL、ダラム、ウォーリック、セント・アンドリュース、プリンストン、イエール、シカゴ、NYU、マギル、トロント、UBC、早稲田。2025年卒はUCLに10名、インペリアル3名、ケンブリッジ、LSE、ウィリアムズ。IB DPは2025年開始で、初の結果は2027年

大学進学に強い（続き）



A-ティアー

難関大には安定して届く。トップ校への合格は年による

● サンモール（St Maur）

1学年30～36名（フルDP受験23～29名）。IB平均は2022年38.5→23年33.1→24年35.3→25年34.2→26年35.3、合格率96～100%。2026年は14%が40点以上、32%がバイリンガル・ディプロマ。進学先（抜粋・年の記載なし）：ケンブリッジ、KCL、エディンバラ、ペンシルベニア、ジョーンズ・ホプキンス、UCバークレー、マギル、トロント、慶應、早稲田、ICU、NUS、カロリンスカ

● 聖心インター・広尾（ISSH）

1学年43名（2027年卒、女子校）。AP平均は2023年3.95（238科目）→26年4.1（303科目、3以上が91%）。合格実績（2024～26）：ハーバード、イエール、ブラウン、コーネル、ダートマス、ペンシルベニア、デューク、ノースウェスタン、オックスフォード、ケンブリッジ、UCL、トロント、マギル、東大、慶應、早稲田

● 横浜インター（YIS）

1学年72名（2027年卒）、DP受験57～68名。IB平均は2022年35→23年35→24年34→25年32.4→26年36、合格率95～100%。進学先（2021～24、人数付き）：トロント14、UBC10、早稲田7、ワシントン5、ICU5、上智5、ケンブリッジ2、ペンシルベニア2、コーネル、シカゴ、UCバークレー、インペリアル、UCL、東大PEAK、慶應。米国36%、アジア14%（2021～24）

● 大阪インター（OIS）

1学年27～28名、DP受験23～25名。IB平均は2025年35→26年34、2年とも全員合格。2026年は3分の1弱がバイリンガル・ディプロマ。SAT平均1,288～1,330。進学先（2022～26）：プリンストン、イエール、USC、ミシガン、オックスフォード、ケンブリッジ、LSE、KCL、マギル、トロント、UBC、阪大、九大、岡山大、慶應PEARL、早稲田、ソウル大

● 清泉（Seisen）

1学年約48名（女子校）、DP受験35～44名。IB平均は2023年34→24年34→25年35→26年33、合格率94～98%。40点以上は毎年4～8名。進学先（2020～26年卒）：ブラウン、ノースウェスタン、ノートルダム、アマースト、ポモナ、UCバークレー、UCLA、UCL、KCL、エディンバラ、トロント、マギル、東大、京大、慶應、早稲田、KAIST



B+ティアー

最新の点数と進学先を公表。北米・日本の主要大へ着実に送り出す

● カナディアン・アカデミー（CA）

1学年約64名（9～12年生254名）。DP受験者は22名（2023）から57名（2026）と2倍以上に増え、IB平均は35.1→34.6→33.8→33.4→32.6（2022～26）。進学先（2022～26、人数付き）：トロント11、UBC9、マギル5、香港大5、ICU5、上智5、早稲田5、インペリアル2、スタンフォードとオックスフォード各1

● クリスチャン・アカデミー（CAJ）

キリスト教系。AP受験82名・199科目、3以上を取った生徒は89%（2026）。SAT中央50%は1110～1330（2027年卒）。進学先（2023～26、人数付き）：早稲田19、ICU9、上智6、慶應4、UBC3、ミシガン3、トロント2、UCLA2、ハーバード、コーネル、ノースウェスタン

● 名古屋インター（NIS）

1学年32名（2026年卒、DP受験25名）。IB平均は2026年33。合格実績（2026年卒）：UCLA、UCL、KCL、ウォーリック、トロント3、UBC2、マギル、東大、早稲田3、上智3、慶應2、ICU。2016年以降ではスタンフォード、ブラウン、ペンシルベニア、デューク、ケンブリッジ、インペリアル、LSEにも合格

大学進学に強い（補足）

B

Bティア

主要大への実績はある。ただ公表データが少ない、または古い

同志社インター京都（DISK）

1学年非公表。IB平均34点（ディプロマ取得者の平均）、83%がバイリンガル・ディプロマ。合格・進学先（2025年2月時点）：UCL、トロント、メルボルン、ANU、UNSW、アアルト、ノースイースタン、カルポリ、プラット、阪大、早稲田、上智。2029年に閉校予定で、11～12年生の新規受け入れはすでに終了

アオバジャパン（AJIS）

1学年53名（2025年卒、うちIB35名、残りは独自のGLD）。IB平均は33点（2023）。合格実績（プロフィールの累積リスト）：シカゴ、カーネギーメロン、UCバークレー、ミシガン、インペリアル、UCL、KCL、エディンバラ、トロント、UBC、マギル、東大、阪大、名大、早慶上智ICU

マリスト・ブラザーズ（MBIS）

神戸の小規模校（2027年卒34名）。IB平均は2026年32点（ディプロマ取得者のみ）。合格実績（年の記載なし）：コーネル、ライス、ノースウェスタン、UCバークレー、ミシガン、KCL、UCL、トロント、UBC、早慶上智ICU。データは薄い、この規模の学校としては立派な顔ぶれ

新

卒業生が始めたばかり（参考・層分けなし）

結果がまだ1～2年分なので層には入れず、参考として載せた

ラグビー・スクール・ジャパン（RSJ）

2025年に初の卒業生10名（UCL、KCL、マギル、エディンバラ、早稲田などに合格）。2026年卒（人数非公表）はAレベルA*～Aが68%、A*が28%。進学先にオックスフォード、ケンブリッジ、インペリアル、UCL、エディンバラ、上智。学校発表では「全員が第一志望へ進学」

ハロウ安比校（Harrow Appi）

2026年に初の卒業生34名（12か国）。81大学から146件の合格、うち64件がQS世界トップ100。UCL、KCL、エディンバラ、トロント、UBC、カーネギーメロン、清華大、早慶上智などに合格（進学先は非公表）

ニックの一言

ここに出したのは、その100校の中で私が上位と考えるほんの一部だ。名前があるだけで、かなりの高評価だと思ってほしい。この層分けは絶対ではない。SをASIJだけにしたのは、1学年140名超という規模で、最難関の合格が毎年のように途切れないからだ。AとA-の差は、トップではなく、学年の5番手や15番手がどこに行くかの差だ。それでも、この並びには自信がある。各校のスクールプロフィールを全部読んで数字を積み上げたら、教える側と通った側、両方の肌感覚とほぼ一致したのだ。もう一つ大事なのは、我が子はその学校で何番手にいるかだ。サンモールで上位10～15%の生徒は、セント・メリーズの平均的な生徒より良い大学に行くことも多い。新設校の多くはまだ卒業生がいない。1994年に幼稚園として始まった東京インターも高校を作ったばかりで、2027年に初の卒業生が出る。老舗に食らいついていく新しい学校はどこか。私はそこを一番楽しみにしている。

英国系のインター

英国式の学校。前半は本国ブランドの日本進出組、後半は以前からある英国系。

本国ブランドの日本校（すでに開校）

- **ハロウ安比校（Harrow Appi）**
岩手県・2022年開校／本国は1572年創立の名門
- **ラグビー・スクール・ジャパン（RSJ）**
千葉県・2023年開校／本国は1567年創立、ラグビー発祥の地
- **マルバーン・カレッジ東京（MCT）**
東京都・2023年開校／本国は1865年創立。IB＋英国式
- **NLCS神戸（NLCS Kobe）**
兵庫県・2025年開校／英国の名門女子校NLCS（1850年創立）の系列。神戸校は共学

本国ブランドの日本校（これから）

- **エプソムカレッジ東京（Epsom）**
東京都・2027年予定／神田外語グループと提携。3～11歳（EYFS～Year 6）
- **ゴードンストウン日本校（Gordonstoun）**
和歌山県・2027年予定／英国王室が学んだ名門（本国は1934年創立）。11～18歳の全寮制
- **ブライトン・カレッジ関西外大（Brighton）**
大阪府枚方市・2028年9月予定／関西外大と提携。2029年か2030年に中高（Aレベル）

以前からある英国系インター

- **ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ（BST）**
東京都・1989年設立／2025年よりIB DPへ移行（最後のAレベルは2026年）
- **セント・マイケルズ・インターナショナルスクール（St Michael's）**
兵庫県・神戸・1946年設立／英国式の小学校
- **アスコット・インターナショナルスクール（Ascot）**
兵庫県・神戸市北区・2018年開校／英国式（ケンブリッジ課程）

ニックの一言

英国ブランドの上陸は、ここ数年で一気に増えた。ただ、日本校は本家の分校ではなく、別の会社が名前と教育方針のライセンスを受けて運営していることが多い。多くは日本より先に海外校を開いていて、ハロウはバンコクや中国など十校以上、ラグビーはタイ、マルバーンは香港、NLCSは済州島、エプソムはマレーシアにある。一方、ゴードンストウンにとって日本校は初の海外校だ。本家がどこまで関わっているかは学校ごとに違うので、説明会で聞いてみてほしい。BSTのような老舗と違って、新顔が根づくかどうかは、卒業生が何期か出るまでわからない。

寮のあるインター

寮で暮らせる学校。全寮制の学校と、通学か寮かを選べる学校に分けた。

全寮制（原則全員が寮生活）

- **ハロウ安比校（Harrow Appi）**
岩手・安比高原／2022年開校・全寮制。約350名
- **UWC ISAKジャパン（ISAK）**
長野・軽井沢／約200名・高校のみ
- **ゴードンストウン日本校（Gordonstoun）**
和歌山市／2027年9月開校予定。全寮制、最終的に11～18歳

寮を選べる・寄宿舍あり

- **ラグビー・スクール・ジャパン（RSJ）**
千葉県／通学・週末寮・全寮から選べる
- **白馬インターナショナルスクール（Hakuba）**
長野・白馬／約70名の寄宿型。2027年に初の卒業生
- **カナディアン・アカデミー（CA）**
兵庫・神戸／六甲アイランド・寮あり
- **北海道インターナショナルスクール（HIS）**
札幌／高校生（G9～12）向けの寄宿舍あり・ニセコ校も併設
- **リンデンホール・スクール（Linden Hall）**
福岡・筑紫野／学生寮を備える中高一貫
- **暁星国際学園（Gyosei）**
千葉県／寄宿舍を備える伝統校
- **立命館宇治中学校・高等学校（Ritsumeikan Uji）**
京都・宇治／2026年にキャンパス内に高校生専用の新寮RUDが開寮・IB DPを置く一条校
- **NLCS神戸（NLCS Kobe）**
兵庫県／2028年8月開校の六甲キャンパス（6年生以上）に通学と寮の両方を用意する予定

ニックの一言

寮のある学校は、日本のインターの中ではまだ少数派だ。寮では、身の回りのことも人間関係も自分で何とかするしかない。私も海外で寮のある学校を見てきたが、寮生は大人になるのが早い。ただ、小さいうちに家から出すかどうかは、どの家庭にとっても簡単には決められない。

英語で学べる一条校

英語で学べるが、法律上は日本の学校（一条校）。卒業資格は日本のもので、学費はインターの半分以下が多い。順位ではなくリスト。費用は各校公表の年額概算（2025～27年度、入学金・寮費は別）。IBディプロマを置く一条校は全国に約50校（多くは日本語DPを併用）。一覧は文部科学省IB教育推進コンソーシアム（ibconsortium.mext.go.jp）に。

主要教科を英語で教えるクラスがある私立（IBなし）

- **広尾学園 インターナショナルコース AG**
港区南麻布／2007年設置、小石川校は2021年～。国語と社会の一部以外は英語、高2からAP。年約89万
- **三田国際科学学園（旧三田国際学園） インターナショナルクラス**
世田谷区用賀／アカデミー群（帰国生等）は英数理社を英語で、他は段階的。高校はAP／豪DDP。年約93万
- **サレジオン国際学園（赤羽・世田谷）**
北区赤羽・世田谷区大蔵／アドバンストは数理社も英語（世田谷は2027年度からVISTA）。年約76万～90万
- **静岡聖光学院 インターナショナルコース（アドバンストクラス）**
静岡市・男子校／2027年度から。国語と実技以外は英語、ケンブリッジ国際校。年約104万＋寮費
- **昭和女子大学附属昭和小学校 国際コース**
世田谷区太子堂／2024年度新設。授業の約6割が英語、ケンブリッジ国際校。年約167万
- **吉祥寺学園インターナショナルスクール**
武蔵野市／2027年に小1から開校、中等部・高等専修部も計画。授業の約7割が英語。年約180万

IBディプロマを置く一条校

- **東京学芸大学附属国際中等教育学校**
練馬区・国立／2007年開校。MYP＋DP（英語と日本語の2言語）。第一言語は日本語。学費は国立水準
- **東京都立国際高校 国際バカロレアコース**
目黒区駒場・都立／2015年開設。DPは日本語以外を英語で、年25名。授業料11.9万円は都が無償化
- **開智日本橋学園**
中央区日本橋／MYP＋DP。DP生は年約107万（2025年度）。DP平均34.4点（6期生）
- **玉川学園 IBクラス**
町田市／IB認定2009年（MYP）・2010年（DP）。英語ベースで一部日本語。年約179万（2026年度）

英語で学べる一条校（続き）

IBディプロマを置く一条校（続き）

● ぐんま国際アカデミー（GKA）

群馬県太田市／2005年開校、小中高一貫。教科の7割が英語、全員がMYP・DPを履修。年約107万、高校はIB費+48万

● 加藤学園暁秀 バイリンガルコース

静岡県沼津市／2000年にIB認定、一条校の中高で日本初。高校は授業の約75%が英語。年約97万

● 聖隷クリストファー グローバルスクールコース

浜松市／2022年開設。国語以外の教科を英語で。2024年PYP、2025年DP認定（2026年度から順次実施）。高等部の学費は未公表（中等部は年約92万、2027年度）

● 名古屋国際中学校・高等学校 IBクラス

名古屋市／2014年にDP認定（東海地方の一条校で初）、2024年にMYP。IBクラスは1学年25名、DPは国語以外を英語で。高1は年約87万（2027年度）

● 大阪国際中学校・高等学校 IBコース

守口市／2022年DP認定。高1は授業の約半分、高2からは体育・保健以外ほぼすべて英語。1クラス最大15名。通常の学費+IB特別費が年45万

● AICJ中学・高等学校 IBコース

広島市／2009年、西日本初のIB認定一条校。中1から英語イマージョン、IBコースは1学年約30名。年約84万（2027年度）

ニックの一言

この数年で一番増えたのは、インターではなくこの手の学校だ。20～30年前、数学や理科を英語で教える学校はほぼなかった。今はAPやケンブリッジ、IBを一条校が自分から取りに行っている。日本人の家庭にはお勧めで、理由は二つ。一つは学費で、多くはインターの3分の1から半分ほど。もう一つは大学だ。インターによっては日本の大学への道が細く、入りやすい2～3校に集まりがちだ。一条校なら、その道がずっと広い。

おわりに

ここまで読んでくれて、ありがとうございます。

設立年から学費、IBの点数、キャンパスの広さまで、日本のインターを数字で並べてきました。

とはいえ、IB42点の学校が我が子に合うとは限りませんし、駅から1分の学校で毎日楽しく過ごせるとも限りません。数字で候補をしぼったら、あとは実際に足を運んで、学校の空気と、それを見ている子どもの顔を確かめてください。

インターの世界には「ベストフィット (best fit)」という言葉があります。一番いい学校ではなく、その子に一番合う学校を探そう、という意味です。この本のどれか一つの数字でも、その手がかりになれば嬉しいです。

数字は毎年変わるので、この本も毎年更新します。変わっている点や、加えてほしい学校があれば、ぜひ教えてください。学校を間近で見ている保護者や先生からの指摘が、いちばん頼りになります。

まだ前作『うちの子、インターでいいのか?』を読んでいない方は、そちらもぜひ。インターに入れるかどうかで迷っている段階なら、きっと役に立つと思います。

それでは、また。

ハリス・ニコラス

前作もぜひ

うちの子、インターでいいのか?

インターの仕組み、メリットとデメリット、卒業後の進路まで正直に書きました。

Amazon: <https://www.amazon.co.jp/dp/B0H6FFJBYS>

学校索引

本書に登場する学校と、掲載されている章。

アオバジャパン (AJIS)	3・4・6・7・10
秋谷葉山国際学園 (AHIS)	3
アスコット (Ascot)	2・11
アメリカン・スクール (ASIJ)	1・4・5・6・7・8・9・10
インド・インター (IISJ)	4・5
AICJ	13
NLCS神戸 (NLCS Kobe)	2・3・11・12
エブソムカレッジ東京 (Epsom)	3・11
大阪インター (OIS)	4・6・7・10
大阪国際	13
大阪YMCAインター (OYIS)	5・6
オキナワ・クリスチャン (OCSI)	4・5
開智日本橋学園	6・13
加藤学園暁秀	13
カナディアン・アカデミー (CA)	1・4・5・6・7・8・10・12
カナディアン・インター東京 (CIS Tokyo)	9
吉祥寺学園インターナショナルスクール	13
暁星国際学園 (Gyosei)	12
クリスチャン・アカデミー (CAJ)	4・5・6・10
ぐんま国際アカデミー (GKA)	13
ケイ・インター東京 (KIST)	4・6・7・9・10
神戸ドイツ学院 (DSKI)	1
ゴードンストウン日本校 (Gordonstoun)	3・11・12
コロンビア・インター (所沢)	5
サレジアン国際学園	13
サンモール (St Maur)	1・3・4・5・6・7・10
GIIS東京	4・5・6
静岡聖光学院	13
シナガワ・インター (SIS)	9
昭和女子大学附属昭和小学校	13
聖心インター・広尾 (ISSH)	1・4・6・7・9・10
清泉 (Seisen)	4・6・7・10
聖隷クリストファー	13

セント・マイケルズ (St Michael's)	1・11
セント・メリーズ (SMIS)	4・5・6・7・8・10
玉川学園	13
つくばインター	5
東京インター (TIS)	5・7・9・10
東京学芸大学附属国際	13
東京国際フランス学園 (LFI)	4・5・7・9
東京都立国際高校	5・13
東京横浜独逸学園 (DSTY)	1・5
同志社インター京都 (DISK)	2・5・10
東北インター (仙台)	5・6
名古屋インター (NIS)	4・5・6・7・8・10
名古屋国際	13
西町インター (Nishimachi)	1・5・7・9
ニューインター (NewIS)	9
白馬インター (Hakuba)	2・5・8・12
ハロウ安比校 (Harrow Appi)	2・4・5・8・10・11・12
広尾学園	13
広島インター	5
福岡インター	5・7
ブライトン・カレッジ関西外大	3・11
ブリティッシュ・スクール (BST)	4・5・7・9・10・11
北海道インター (HIS)	5・12
ホライゾン・ジャパン (HJIS)	5・6・7
マリスト・ブラザーズ (MBIS)	4・5・6・7・10
マルバーン・カレッジ東京 (MCT)	2・5・11
三田国際科学学園	13
UWC ISAK	2・4・5・6・7・8・10・12
横浜インター (YIS)	1・4・5・6・7・10
ラグビー・スクール (RSJ)	2・5・8・10・11・12
立命館宇治 (Ritsumeikan Uji)	8・12
リンデンホール (Linden Hall)	12
ローラス・インター (Laurus)	4・9

大学などの略称： ANU＝オーストラリア国立大学、ICU＝国際基督教大学、KAIST＝韓国科学技術院、KCL＝キングス・カレッジ・ロンドン、LSE＝ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス、MIT＝マサチューセッツ工科大学、NUS＝シンガポール国立大学、NYU＝ニューヨーク大学、UBC＝ブリティッシュ・コロンビア大学、UCバークレー／UCLA＝カリフォルニア大学バークレー校／ロサンゼルス校、UCL＝ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、UNSW＝ニューサウスウェールズ大学、USC＝南カリフォルニア大学、SAT＝米国の大学入試用の共通テスト、QS＝英QS社の世界大学ランキング